会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（鶴が台団地自治会）
2　日時	平成30年7月7日（土）18：00～19：00
3　場所	鶴が台団地集会所
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、下舞主任 （環境事業センター）関原主査、加茂主任、田中(東）技能労務統括主査 （鶴が台団地自治会）参加人数：30人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●団地の場合、戸別収集は玄関前まで収集に来るのか。 →集合住宅は今まで通りのステーション方式である。藤沢市も集合住宅ではステーション方式を採用している。戸別収集を導入しても鶴が台団地は戸別収集にならず今まで通りになる。 ●有料化について藤沢市ではごみ袋に名前を記入している。茅ヶ崎市でもそうするのか。 →こちらの確認によると、藤沢市においてごみ袋に名前は記入されていない状況である。以前ごみの出し方に問題があった集積所においては名前を記入してごみを出していると所もあったと聞いている。茅ヶ崎市で有料化を行うか未定であるが、もし有料化するならごみ袋に名前は記入しない方法を検討している。 ●生ごみ処理にはディスポーザーを勧めてはどうか、ディスポーザーを導入すると生ごみが減るので良いと思う。また、県内でごみの種別が多いのは横須賀市である。茅ヶ崎は種別を増やすのかどうか。 →ディスポーザーは一時期広まったが、現在は普及数が伸び悩んでいる状況である。茅ヶ崎市はディスポーザーではなく生ごみ処理容器や生ごみ処理機を勧めている。生ごみ処理容器はスペースが必要で臭いもあるため集合住宅地には向かない。電動生ごみ処理機は臭いが少なく集合住宅向けである。今後も生ごみ処理容器と電動生ごみ処理機の普及に努める予定である。ごみの分別や種別数は市町村によって差があり、その差は市町村のごみ処理施設によって変わってくる。鎌倉市はごみ処理施設が抱える課題により、ごみの分別が進んでおり、有料化に取り組んでいる状況である。横須賀市も似たような状況であり、それに伴いごみの分別が進んでいる状況である。茅ヶ崎市の最終処分場はまだ余力があるが、地元との協定で2033年度が使用期限となっている。茅ヶ崎市も最終処分場の問題があるが、ごみの種別は増やさない方向で検討中である。 ●市民税の枠内でごみ処理を行って欲しい。年金収入が下がっており生活がきつい。

	●ごみ袋料金の積算根拠はなにか。集合住宅は戸別収集不可なのでごみ袋代金を安くするなど検討して欲しい。 →積算の根拠は税負担を基本として、全体のごみ処理経費の中で市民の皆様に負担してもらいたい%を決めてから料金を試算している。また、あくまでもごみの有料化と戸別収集は別々に考えている。戸別収集の費用をごみ袋代に当てることは考えていない。 ●ごみの有料化になった場合、団地周辺の枯葉等も有料になるのか。 →検討中である。地域清掃や剪定枝等は有料化対象外の自治体が多い。他の品目として藤沢市においては子育て支援としてオムツも有料化対象外となっている。 ●有料化の範囲はどうなるのか。 →決まってはいないが、他市は燃やせるごみと燃やせないごみを有料化にしている自治体が多い状況である。 以上